

財団法人 日本サッカー協会
平成 18 年度 第 11 回理事会

協議事項

1. 特任理事選任の件
<p>※（協）資料No.1</p> <p>元横浜F・マリノス監督の岡田武史氏を特任理事に選任したい。</p>
2. 日本代表チームデータベース検討委員会の件
<p>1. 目的</p> <p>これまで行われた日本代表試合を精査し、開催日、開催場所、メンバー、得点者等の確定を行い、データベース化を行う。</p> <p>2. メンバー</p> <p>委員長 小倉 純二（副会長）</p> <p>委員 大住 良之</p> <p>後藤 健生</p> <p>名取 裕樹（共同通信社）</p> <p>潮 智史（朝日新聞社）</p> <p>岡田 武夫（東アジアサッカー連盟）</p> <p>幹事 小野沢 洋（ミュージアム部）</p> <p>小林 利章（代表チーム部）</p> <p>永松 太（広報部）</p> <p>高埜 尚人（事業部）</p> <p>川瀬みどり（国際部）</p> <p>津内 香（ミュージアム部）</p>
3. 全日本大学女子サッカー連盟 加盟申請の件
<p>全日本大学女子サッカー連盟から本協会への加盟申請があった。</p> <p>会長：小野 清子</p> <p>理事長：河合 一武</p> <p>加盟校：56 大学</p> <p>登録者数：1,072 名</p>

4. 環境プロジェクトの件

サッカー協会として現在取り組んでいる環境活動を整理し、今後どのように環境対策に貢献できるかを検討するプロジェクトを立ち上げる。

[メンバー]

リーダー：田嶋 幸三（JFA専務理事）

サブリーダー：犬飼 基昭（JFA常務理事／Jリーグ専務理事）

メンバー 岡田 武史（JOCスポーツ環境アンバサダー）

濱口 博行（JFA国際委員）

石 弘之（北海道大学 特任教授）

羽生 英之（JFA特任理事／Jリーグ事務局長）

真田 幸明（JFA CHQ部長兼登録・普及部長）

加賀山 公（JFA事業部 国際試合運営グループ部長）

幹 事：湯川 和之（JFA CHQ）

野上 宏志（JFA事業部）

藤ノ木 恵（JFA広報部）

志水 かず美（JFA総務部）

窪田 慎二（Jリーグ運営部）

5. JFAロングパイル人工芝ピッチ公認の件

1. 公認申請者 昭和町長 佐野 精一
 施設名 (仮称) 押原公園人工芝グラウンド
 施設所有者 昭和町長 佐野 精一
 ロングパイル ドリームターフ [F65E-fil/積水樹脂株]
 人工芝 (種類)

公認日：2007年3月8日～2010年3月7日

公認番号：第49号

<特記事項>

- ◆ ドリームターフ (F65E-fil) は製品検査 (ラボテスト) を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。
- ◆ 公認規程に基づき2回の検査 (フィールドテスト) を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。

2. 公認申請者 独立行政法人日本万国博覧会記念機構 (2回目検査予定日：3/2)
 施設名 万博記念公園総合スポーツ広場
 施設所有者 独立行政法人日本万国博覧会記念機構 理事長 中井 昭夫
 ロングパイル グランガラス [F-N65/美津濃株]
 人工芝 (種類)

公 認 日：2007年3月8日～2010年3月7日

公 認 番 号：第50号

<特記事項>

- ◆ グラングラス (F-N65) は製品検査 (ラボテスト) を完了し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。
- ◆ 公認規程に基づき2回の検査 (フィールドテスト) を実施し、JFA ロングパイル人工芝基準を満たしている。

6. 「JFAロングパイル人工芝ピッチ公認規程」改正の件

※ (協) 資料No.2①②③

第一号の公認施設の更新時期を控え、「JFAロングパイル人工芝ピッチ公認規程」等の改正を行う。

1. 改正の目的

- ・ 公認の有効期間3年を経過した公認施設の「公認の更新」に関する事項を定めるため。

2. 改正の内容

- ・ 別添資料を参照。

3. 改正の対象

- 1) JFAロングパイル人工芝ピッチ公認規程
- 2) 人工芝ピッチ公認に関するガイドブック (第2版) → (第3版) ※別添参照
- 3) JFAロングパイル人工芝一検査マニュアル (第3版) → (第4版) ※別添参照

7. フットサル1級審判員及びフットサル審判インストラクター登録料変更の件

※ (協) 資料No.3

フットサル1級審判員及びフットサル審判インストラクターの登録料について次の通りとしたい。

<フットサル1級審判員>

- ・フットサル2級審判員からフットサル1級審判員への昇級が行われること、Fリーグが開催されることなどから、2008年度から登録料を12,000円とする。

*現在は、暫定的にフットサル2級審判員と同額の5,000円としている。

これに伴い、基本規定を改定する。

＜フットサル審判インストラクター＞

- ・フットサル審判員及びフットサル審判インストラクター制度が確立したため、これまでサッカー審判インストラクターとフットサル審判インストラクターの2つの資格を有している審判インストラクター登録料に関する経過措置を終了させ、2008年度から規定の金額で徴収する。

(注) H17年度第12回理事会で承認済み

フットサル1級審判インストラクター／10,000円 (これまで、2,000円)

フットサル2級審判インストラクター／4,000円 (これまで、2,000円)

8. レフェリーカレッジ・インストラクター契約更新の件

現在、レフェリーカレッジのインストラクターを担当している石山 昇氏と契約を更新する。

契約期間：2007年4月1日～2010年3月31日

氏名：石山 昇 (いしやま・のぼる)

生年月日：1958年12月6日 (48歳)

役職：レフェリーカレッジ・インストラクター

業務：・審判員の育成、強化に関わる全般業務

・レフェリーカレッジに関わる業務

・FIFA、AFC等からの業務依頼への対応

9. 審判部テクニカル・スタッフ (柿沼 亨氏) 契約更新の件

現在、審判部のテクニカル・スタッフを担当している柿沼 亨氏と契約を更新する。

契約期間：2007年4月1日～2010年3月31日

氏名：柿沼 亨 (かきぬま・とおる)

生年月日：1981年5月13日 (25歳)

役職：審判部テクニカル・スタッフ

業務：審判員、審判指導者向けの各種映像資料作成及び編集

10. 特別委員会 委員交代の件

天皇杯実施委員会

中国地域代表委員 (現) 山岡 征夫 → (新) 中山 正剛

11. 平成19年度JFAアンバサダー選考の件

次の9名 (新規3名、再任6名) を平成19年度JFAアンバサダーとして推薦します。

【新規】

氏名：城 彰二

生年月日：1975年6月17日（31歳）

出身：北海道

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）36試合、J1リーグ戦230試合、J2リーグ戦151試合

所属チーム：室蘭市立中島小学校 → 加治木町立加治木中学校

→ 鹿児島実業高等学校 → ジェフユナイテッド市原

→ 横浜F・マリノス → スペイン・バリャドリード

→ 横浜F・マリノス → ヴィッセル神戸

→ 横浜FC（2006年シーズン終了後引退）

※保有資格：C級

氏名：小倉 隆史

生年月日：1973年7月6日（33歳）

出身：三重県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）5試合J1リーグ戦166試合、J2リーグ戦75試合

所属チーム：白子サッカー少年団所属 → 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

→ 四日市中央工業高校 → 名古屋グランパスエイト

→ エクセルシオール → 名古屋グランパスエイト

→ ジェフユナイテッド市原 → 東京ヴェルディ1969

→ コンサドーレ札幌 → ヴァンフォーレ甲府

（2005年シーズン終了後引退）

※2006年度B級取得見込

氏名：前園 真聖

生年月日：1973年10月29日（33歳）

出身：鹿児島県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）20試合、J1リーグ戦191試合、J2リーグ戦38試合

所属チーム：東郷サッカースポーツ少年団 → 東郷中学校 → 鹿児島実業高等学校

→ 横浜フリューゲルス → ヴェルディ川崎 → サントス

→ ゴイアス → 湘南ベルマーレ → 東京ヴェルディ1969

→ 安養LG → 仁川ユナイテッド（2004年シーズン終了後引退）

※保有資格：C級

【再任】

氏名：福田 正博

生年月日：1966年12月27日（40歳）

出身：神奈川県

試合出場数：日本代表（国際Aマッチ）45試合

J 1 リーグ戦 216 試合、J 2 リーグ戦 12 試合

所属チーム：藤沢市大庭 FC → 藤沢市立大庭中学校 → 相模工業大学付属高等学校
→ 中央大学 → 三菱重工 → 三菱自動車工業
→ 浦和レッズ (2002 年シーズン終了後引退)

※2006 年度 S 級取得見込

氏 名：永島 昭浩

生年月日：1964 年 4 月 9 日 (42 歳)

出 身：兵庫県

試合出場数：日本代表 (国際 A マッチ) 4 試合、J 1 リーグ戦 165 試合

所属チーム：千歳小学校 → 太田中学校 → 御影工業高等学校
→ 松下電器産業 → ガンバ大阪 → 清水エスパルス
→ ヴィッセル神戸 (2000 年シーズン終了後引退)

※保有資格：C 級

氏 名：武田 修宏

生年月日：1967 年 5 月 10 日 (39 歳)

出 身：静岡県

試合出場数：日本代表 (国際 A マッチ) 18 試合、J 1 リーグ戦 237 試合

所属チーム：浜松佐藤サッカースポーツ少年団/浜松 J F C → 浜松市立丸塚中学校
→ 静岡県立清水東高等学校 → 読売クラブ → ヴェルディ川崎
→ ジュビロ磐田 → ヴェルディ川崎 → 京都パープルサンガ
→ ジェフ市原 → スポルティボ・ルケーニョ → ヴェルディ川崎
→ 東京ヴェルディ 1969 (2001 年シーズン終了後引退)

※保有資格：S 級

氏 名：相馬 直樹

生年月日：1971 年 7 月 19 日 (35 歳)

出 身：静岡県

試合出場数：日本代表 (国際 A マッチ) 59 試合、J 1 リーグ戦 289 試合

所属チーム：清水 FC → 清水第六中学校 → 清水東高等学校 → 早稲田大学
→ 鹿島アントラーズ → 東京ヴェルディ 1969 → 鹿島アントラーズ →
川崎フロンターレ (2005 年シーズン終了後引退)

※2006 年度 B 級取得見込

氏 名：澤登 正朗

生年月日：1970 年 1 月 12 日 (37 歳)

出 身：静岡県

試合出場数：日本代表 (国際 A マッチ) 16 試合、J 1 リーグ戦 381 試合

所属チーム：富士宮市立上野小学校 → 東海大学第一中学校
→ 東海大学第一高等学校 → 東海大学
→ 清水エスパルス (2005 年シーズン終了後引退)

※保有資格：B 級

氏 名：小島 伸幸

生年月日：1966 年 1 月 17 日 (41 歳)

出 身：群馬県

試合出場数：日本代表 (国際 A マッチ) 5 試合、

J 1 リーグ戦 239 試合、J 2 リーグ戦 23 試合

所属チーム：前橋市立勝山小学校 → 私立新島学園中学校 → 新島学園高校
 → 同志社大学 → フジタ工業 → ベルマーレ平塚
 → アビスパ福岡 → ザスパ草津 (2005年シーズン終了後引退)
 ※保有資格：B級

◆「JFAアンバサダー」の定義（目的および役割）

日本代表経験者の中から、過去の実績や日本サッカー界への貢献度等に基づき「JFAアンバサダー」を選定する。

「JFAアンバサダー」は、既存のサッカー関係者だけでなく広く世間一般にも知名度の高い点を生かしながら、トレセン活動やキャプテンズ・ミッション関連活動（キッズ、レディースサッカー等）などのJFAの各種事業へ参加し、JFAの活動を積極的にPRする。

これを通じて、全ての人々にサッカーをより身近なものに感じてもらい、サッカーのより一層の普及を推進し、また若年層のプレーヤーに「日本代表」をより現実的な存在として感じてもらうことにより、プレーヤーのモチベーション向上の役割を担う。

◆選定に関する基準

1. 日本代表選手としての過去の実績・サッカー界への貢献度、及び本人の資質・状況等を総合的に勘案し、選定する。
2. JFAのユース育成方針・普及活動方針に同意する者とする。
3. 技術委員会（CHQと連携）にて選定し、理事会の承認を得る。

◆任期

原則として1年間とする。（但し、再任も可とする）

◆主な活動内容

1. ナショナルトレセン（U-16・U-14・U-12）
2. JFAエリートプログラム
3. キッズサッカーの普及活動
4. レディースサッカーの普及活動
5. フットサルの普及活動
6. キャプテンズ・ミッション関連の活動
7. こころのプロジェクト

◆その他

主管部署は技術委員会/技術部とし、CHQおよび事業部と連携を取りながら、スケジュール管理、派遣依頼の対応を行なう。

12. 平成18年度公認S級コーチ養成講習会判定結果の件

全てのコースを修了し、筆記試験・口頭試験・指導実践・レポート全てにおいて合格したため下記1名を公認S級コーチと認定する。

氏 名 : 岡中 勇人
 所属チーム : 大分トリニータ
 生年月日 : 1968年9月26日 (38歳)
 資 格 : 2004年 公認B級コーチ (旧C級コーチ)
 指 導 歴 : 2006年 大分トリニータ育成部 U-15・12 フィールド兼 GKコーチ
 2006年 (財)日本サッカー協会ナショナルトレーニングセンター
 九州 GK 担当

13. 2007年度JFA指導者養成事業開催要項の件)

※ (協) 資料No.5①～⑧

別紙開催要項の通り、2007年度(平成19年度)のJFA指導者養成事業を開催する。
 大きな変更点は以下の通り。

(1) 公認B級コーチ養成講習会(変更)

①受講枠増(コース増)

・352名(11コース) ⇒ 384名(12コース)

②推薦枠

・都道府県協会208名 ⇒ 240名

③共通科目

・Eラーニングコースの新設

従来の集合講習(5泊6日)に加え、インターネット上で学習できるコース(Eラーニングコース)を新設する。実技講習・試験は1泊2日で実施する。

(2) 公認ゴールキーパー養成講習会(変更)

・受講資格

現行 GK・A級 → 公認A級ライセンスを有している方

GK・B級 → 公認B級ライセンスを有している方

GK・C級 → 公認C級ライセンスを有している方

変更後 GK・A級 → 公認A級及びGK・B級ライセンスを有している方

GK・B級 → 公認B級及びGK・C級を有している方

GK・C級 → 公認C級を有している方

(3) 公認A級ユースコーチ養成講習会(新設)

JFA2005年宣言における2015年、2050年の約束の実現のためには、U-12年代の子どもたちの育成は最重要事項の一つであると考えます。そのためには、この年代の指導者のレベルアップおよび地位向上を図る必要があります。現状ではC級コーチがU-12年代の指導を扱う唯一の指導者資格であったが、この年代の指

導をより専門的に深めていく指導者資格の講習を開設することとする。

※ 詳細は別添募集要項をご参照

14. 平成 18 年度トレセン/地域リーグ・U-16 地区リーグ支援制度（追加支援）の件

※（協）資料No.6

トレセン/地域リーグおよびトレセン/U-16 地区リーグの追加募集に申請のあった地域に対して、審査し別紙の通り支援金を支払う。

15. 平成 19 年度 トレセン支援制度の件

※（協）資料No.7①②③

昨年度より引き続き別紙要綱にて募集を開始する。

- ・地域リーグ支援制度（資料No.7①-1、2）
- ・U-16 地区リーグ支援制度（資料No.7②-1、2、3）
- ・9 地域スタッフ研修会支援制度（資料No.7③-1、2）

16. 地域ユースダイレクター設置の件

※（協）資料No.8

世界トップ 10 入りを目指し、さまざまなユース育成年代の改革に取り組んでいる。
現状の成果と問題点から今後の取り組み、改革のスピードを鑑み、地域と J F A との連携を強化する必要がある。
各地域内に種別を越え、全体を調整、統括する地域ユースダイレクターを配置する。

17. 47 F A ユースダイレクター設置の件

※（協）資料No.9

地域ユースダイレクターの設置とともに、J F A、地域と連携しながら各都道府県 F A 内の育成年代の責任者として、県技術委員長を補佐、連盟の垣根を越えた活動を推進する、47 F A ユースダイレクターを配置する。

18. 平成 19 年度ナショナルトレセンコーチ [女子担当] の件

※（協）資料No.10

次の13名を、平成19年度のナショナルトレセンコーチ〔女子担当〕とする。

統括： 今泉 守正（JFAアカデミー福島女子ヘッドコーチ）
 北海道： 松田 哉
 東北： 坂尾 美穂（JFAアカデミー福島女子コーチ）
 関東： 手塚 貴子（栃木サッカークラブ）
 北信越： 榎本 恵子（アルビレックス新潟レディース）
 東海： 山口小百合（磐田市役所）
 関西： 加治 真弓（神戸市立王塚台中学校）
 中国： 和田 敬（岡山県立玉野高等学校）
 四国： 田口 禎則
 九州： 北川ちはる（九州総合スポーツカレッジ）
 全体： 高倉 麻子 *新任
 GK： 西入 俊浩（東京電力女子サッカー部 マリーゼ）
 GK： 小林 忍（JFAアカデミー福島女子GKコーチ） *新任

19. なでしこチャレンジプロジェクトの件

なでしこジャパンに挑戦する選手たちを発掘・育成・強化するプロジェクト。

ナショナルトレセン女子U-15に参加する選手より上の年代で、なでしこジャパン予備軍とも言える選手たちを選出・招集し、トレーニングキャンプを行う。

トレーニングキャンプはなでしこジャパン（あるいはU-20～18日本代表チーム）と同時期・同会場で行い、合同トレーニング、トレーニングマッチ等でいっしょにプレーする機会を持ち、比較、見極めを行う。

また、選手の所属チームのコーチを対象とした指導者講習を並行開催し、選手の長所・課題を共有、コミュニケーションを図り、選手のレベルアップにともに取り組みでいく体制をつくる。

JFAで招集する期間より、はるかに所属での活動期間が長く、そのトレーニングの質・量が選手のレベルアップに大きく影響する。ナショナルコーチングスタッフと所属チームのコーチが協力して、「我々の選手」という意識を持ち、なでしこジャパンにチャレンジさせる。

【トレーニングキャンプ】

期間： 4泊5日（1回目は2007年3月30日～4月3日）

頻度： 年2回

場所： Jヴィレッジ

参加選手：1回のキャンプに約30名を招集。

15歳から22歳くらいを対象とするが、タレント性を重視し、特に年齢の制限は設けない。

U-18日本代表チームの立ち上げの前にはその対象となる年代の選手を中心に招集。

スタッフ：ナショナルコーチングスタッフ・ナショナルトレセンコーチ（GKコーチ含め4名）・ドクター・トレーナー・総務（指導者講習も対応）

キャンプ終了後のフォロー：

代表選手と同様に、その年代のナショナルコーチングスタッフが活動状況のチェック等を継続して行っていく。

【指導者講習】

期間： 1泊2日（トレーニングキャンプの1～2日目）

頻度： 年2回

場所： Jヴィレッジ

参加者： 所属チーム指導者

指導： ナショナルコーチングスタッフ・ナショナルトレセンコーチ
（上記4名のうち、1名が主担当）

内容： ・なでしこジャパンのコンセプト等のレクチャー
・トレーニング内容の説明／質疑応答／実技講習
・ナショナルコーチングスタッフとのミーティング
・メディカルミーティング

リフレッシュポイント：20ポイント

補助： 1泊分の宿泊費、片道分の旅費はJFA負担
所属先への派遣依頼文書の送付

20. 2002 F I F Aワールドカップ記念事業の件

※（協）資料No.11

1. 記念事業推進委員会について（報告事項）

2007年2月15日（木）に開催された「第11回 記念事業推進委員会」において、記念事業推進委員により、次の通り、記念事業推進委員会の解散の方針が確認された。

- ① 本委員会を、「2002 FIFA ワールドカップ記念事業基金特別会計」及び「記念事業推進特別会計」における全ての残高の執行がなされた、若しくは、その執行方法等が確認された段階で、解散することとする。

- ② 解散時期については、平成 19 年度の早期段階を目指すものとし、平成 20 年度以降の事業費として残っている予算残高については、平成 19 年度の早期段階で事業毎の交付先（開催地自治体等）に受け入れてもらうよう、事務局にて調整する。
- ③ 上記②の方針により、平成 19 年度の「記念事業推進特別会計」の収支予算については、「2002 FIFA ワールドカップ記念事業基金特別会計」の残高の全てを、決定済みの予算配分に基づき、計上するものとする。
- ④ なお、平成 20 年度以降の事業費予算残高の交付にあたっては、各事業における事業趣旨に基づき、確実に予算執行／事業実施がなされるよう、交付先（開催地自治体等）に当該趣旨に基づいた基金を設置してもらうなどの対応を求めるものとする。
- ⑤ 本委員会は、上記④の確認がなされた段階で、最終の委員会（第 12 回 記念事業推進委員会）を開催し、本委員会の解散に関して、その方針を確認する。その後、J F A 理事会の協議事項として、本委員会の解散を決議する。

※ なお、平成 19 年度内における記念事業推進委員会の解散後については、「2002 F I F A ワールドカップ記念事業」の一部引継ぎ業務を、CHQ が実施する。

2. 平成 19 年度「2002 F I F A ワールドカップ記念事業」事業計画／収支予算について (協議事項)

上記方針に基づき、別添資料のとおり、平成 19 年度「2002 F I F A ワールドカップ記念事業」の事業計画／収支予算を承認願いたい（「第 11 回 記念事業推進委員会」において承認済み）。

21. キャプテンズ・ミッション（CHQ）関連事項の件

I. 平成 18 年度「J F A メンバーシップ制度基本還元金」について（協議事項）

- 1. 交付金「事務局」の対象協会（現段階：合計 45 協会）
 - ▶ 和歌山県サッカー協会
 - 1) 常勤事務局体制が整備された時期：2007 年 2 月 1 日
 - 2) 基準対象者：鈴木 英司（事務局長）
 - 3) 申請書受付日：2007 年 2 月 1 日
 - 4) 支給金額：25 万円
 - ※平成 18 年度の内、1 月～3 月での認定となるため、規定により 25% を支給。
 - ▶ 長崎県サッカー協会(基準対象者変更)
 - 1) 基準対象者：山下 吉宣（事務局長） <前田前事務局長退任により>
 - 2) 申請書(変更)受付日：2007 年 3 月 1 日（2 月 28 日事務局長退任）

Ⅱ. 平成 19 年度 各種支援制度の対象協会について(協議事項)

1. 各種支援制度 補助金一覧

※ (協) 資料No.12

2. 各種支援制度 選定に関して

1) M3:「JFA キッズプログラム」の推進【2007 年度モデル F A (キッズ)】選定に関して

※ (協) 資料No.13

2) M4:中学生年代の活性化【2007 年度トライアル F A (中学)】選定に関して

※ (協) 資料No.14

3) M5:エリート養成システムの確立 キッズ年代エリート教育【2007 年度リード F A (エリート)】選定に関して

※ (協) 資料No.15

4) M6:女子サッカーの活性化【2007 年度トライアル F A (女子)】選定に関して

※ (協) 資料No.16

5) M7:フットサルの普及推進【2007 年度トライアル F A (フットサル)】選定に関して

※ (協) 資料No.17

6) M8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実【2007 年度都道府県における 2・3 種年代リーグの積極展開】奨励金に関して

※ (協) 資料No.18

7) M9:地域/都道府県協会の活性化【2007 年度チャレンジ F A (都道府県)】選定に関して

※ (協) 資料No.19

8) M10:中長期展望に立った方針策定と提言【2007 年度トライアル F A (シニア)】選定に関して

※ (協) 資料No.20

Ⅲ. 都道府県フットボールセンター整備推進事業について(協議事項)

「都道府県フットボールセンター整備助成事業」平成 19 年度助成金の交付申請書の提出を受け、「都道府県フットボールセンター整備助成事業 助成金交付要項」第 7 条の規定に基づき、次のとおり、助成金交付の決定を行う。

1. 助成金交付申請書の提出

平成 18 年度 第 8 回理事会 (2006 年 12 月 14 日) にて交付の内示を決定した平成 19 年度の 2 件の案件 (島根県/福岡県) につき、交付申請書の提出締切日であった 2007 年 2 月 15 日までに、当該 2 都道府県より、正式な交付申請書の提出を受けた。

2. 助成金交付の決定

※ (協) 資料No.21

IV. その他(報告事項)